

地震発生以降の県医師会の動き

● 7 / 7 (木)

- ・被災された医療機関の復旧支援など医師会が係わる医療支援等に役立ててもらうため、岩手県・宮城県・福島県・茨城県の各医師会あてに、埼玉県医師会会員等から募った義援金（各 1,000 万円、計 4,000 万円）を送付することに、本会理事会で決定。

● 6 / 13 (月)

- ・三郷市医師会青木成夫先生から救護活動の申し出があり、6月17日～9月30日まで宮城県南三陸町志津川病院で医療救護活動に参加予定。

● 5 / 12 (木)

- ・被災された医療機関の復旧支援など医師会が係わる医療支援等に役立ててもらうため、岩手県・宮城県・福島県の各医師会あてに、埼玉県医師会会員等から募った義援金（各 2,000 万円、計 6,000 万円）を送付することに、本会理事会で決定。

● 4 / 26 (火)

- ・朝霞地区医師会天野教之先生の医療チームから四度目の医療救護活動の申出があり、4月26日～28日まで前回と同様、宮城県女川町で医療救護活動に参加。
- ・越谷市医師会中村吉伸先生の医療チームから救護活動の申出があり、4月29日～5月31日まで、岩手県立精神保健福祉センターのこころのケアチームと一緒に岩手県大船渡市で医療救護活動に参加予定。

● 4 / 25 (月)

- ・川越市医師会齊藤正身先生の霞ヶ関南病院医療チームから二度目の救護活動の申し出があり、4月29～30日まで宮城県仙台市内の老健施設を中心に医療救護活動に参加予定。
- ・東京電力執行役員埼玉支店長（片岡和久氏）が来会。
- ・用件は、この度の原発の事故に伴う、計画停電などで、ご迷惑をかけた謝罪と今後の供給見通しについての説明であった。
- ・医療は365日、24時間、行われる。医師は患者がいる限り、医療を提供し続ける責務がある。今後、計画停電など、患者の治療に支障をきたすことのないよう、対応を考えてもらいたい、と要望。

● 4 / 22 (金)

- ・北足立郡市医師会柴田輝明先生の医療チームから救護活動の申し出があり、5月3～5日まで宮城県気仙沼市で医療救護活動に参加予定。

● 4 / 21 (木)

- ・第151回埼玉県医師会定例代議員会で会長から今回の地震発生後の県医師会の動きについて説明。
- ・浦和医師会小原基郎先生から救護活動の申し出があり、5月19日から5周連続、木曜日毎に福島医大心のケアチームに参加し相馬市を中心に医療救護活動に参加予定。

●4/18(月)

- ・朝霞地区医師会天野教之先生の医療チームから三度目の医療救護活動の申し出があり、4月19日～20日まで前回と同様、宮城県女川町で医療救護活動に参加。

●4/16(土)

- ・前日のボランティアミーティングの様子がNHK「おはよう日本」で放映される。
- ・埼玉新聞に「ボランティア希望者被災者ケアで講習」との見出しで、前日のボランティアミーティングについて報道される。

●4/15(金)

- ・県医師会・県作業療法士会・県理学療法士会・県言語聴覚士会が一体となり、避難民の生活不活発病を予防するための震災対応廃用予防ボランティアミーティングを開催。(出席者：金井県医師会長、齊藤正身先生他約300名)

●4/7(木)

- ・さいたまスーパーアリーナからの新たな「避難先における医療救護等のニーズに対する県医師会の体制」についてを理事会で承認。
- ・県医師会として上記のような体制を採ることについて、県民生活部、福祉部、保健医療部の担当課に説明。

●4/4(月)

- ・霞ヶ関南病院医療チームから救護活動の申し出があり、4月4～6日まで福島県郡山市で医療救護活動に参加。
- ・東松山市民病院飯島憲治先生から救護活動の申し出があり、4月8～11日まで宮城県南三陸町で医療救護活動に参加予定。
- ・みなみ草加クリニック白井裕生先生から二度目の救護活動の申し出があり、4月6日からしばらくの間、毎週水曜日に福島県南相馬市で医療救護活動に参加予定。

●4/1(金)

- ・朝霞地区医師会楠山弘之先生の医療グループから救護活動の申し出があり、4月2～4日まで宮城県石巻赤十字病院で医療救護活動に参加。

●3/31(木)

- ・双葉町の避難民の約830人がさいたまスーパーアリーナから旧騎西高校に移動。

●3/30(水)

- ・小平市医師会から、この度の県医師会の取組みの件で、避難先の旧騎西高校を視

察したいとの申し入れがあり。

- ・双葉町の避難民の約500人がさいたまスーパーアリーナから旧騎西高校に移動。
- ・朝霞地区医師会天野教之先生の医療チームから二度目の救護活動の申し出があり、4月1日～3日まで前回と同様の宮城県女川町で医療救護活動に参加。

● 3 / 29 (火)

- ・前日の会議の様相と今回の県医師会の取組みがNHK「おはよう日本」で放映される。
- ・埼玉新聞に「県医師会つなぎ役」との見出しで、旧騎西高校を中心とする、さいたまスーパーアリーナからの新たな避難先での医療救護活動方針について報道される。
- ・埼玉協同病院医療チームから救護活動の申し出があり、3月30日～4月2日まで宮城県塩釜市で医療救護活動に参加。

● 3 / 28 (月)

- ・さいたまスーパーアリーナの一時避難者の受け入れに関する打合会の開催
19日以降のアリーナでの救護活動の経過と課題の説明と県内11カ所に広がる避難先での継続的で円滑な医療体制について情報共有、意見交換。
(県医師会長、担当常任理事、アリーナでの医療救護に携わった地区医師会長、新たな移転先地の地区医師会長、双葉町石田医師、齋藤県医師会介護在宅医療推進委員、保健医療部長、福祉部副部長ほか)

● 3 / 27 (日)

- ・日本医師会から、宮城県へのJMAT派遣の一時休止についての通知

● 3 / 26 (土)

- ・読売新聞に「医療ボランティア奔走」との見出しで、さいたまスーパーアリーナでの医療救護活動の状況が報道される。
- ・医療整備課から、新たな避難所周辺の医療機関の情報提供を受ける。

● 3 / 25 (金)

- ・日本医師会からの「検案担当医の派遣について 現状の報告」(FAX)で岩手、宮城、福島県における検死業務については、3月中、4月初頭は、具体的に活動をお願いできる状況にない、とのことです。(検死業務の一時中断)
- ・アリーナからの新たな避難所等について行政側から情報を入手。関係郡市に情報提供

● 3 / 24 (木)

- ・郡市医師会長会議で、会長から今回の地震発生後の県医師会の動きについて説明、意見交換

- ・さいたま市長等が医療救護に当たる方々を激励。
- ・日本医師会から下記のFAXを入信。

①岩手県の被災地へのJMAT派遣の一時休止について

岩手県にはJMAT以外にも医療チームが入っており、3月中は医療体制が整っていること。なお、4月以降は感染症高齢者等の慢性疾患、メンタルヘルスへの対応が重要となってくる。今後、派遣いただく医療チームは仮設住宅ができ、避難民の健康が確保できるまでの数ヶ月間、可能な限り、同一の被災地に継続して医療ケアができるチーム(人員を交代しながら)をお願いしたいとのこと。

②茨城県の被災地へのJMAT派遣の一時休止について

茨城県内では災害医療について充足しつつあるとのこと。

- ・朝霞地区医師会菅野隆先生から救護活動の申し出があり、25日～27日まで宮城県石巻市で医療救護活動に参加。
- ・北埼玉医師会篠崎浩之先生から救護活動の申し出があり、27日～31日まで宮城県気仙沼市で医療救護活動に参加。

●3/23(水)

- ・アリーナで医療救護を受けた患者さん等が、安心して継続した医療が受けられるよう、県保健医療部、福祉部とさいたま市管内の医師会長、新たな避難先の郡市医師会長との合同会議の開催を申入れ。
- ・同上会議が、03/28(月)の午後7時半からと決まる。
- ・医療救護に当たる方々の活動が、広く県民の皆様方に周知されるよう、報道に働き掛け。

●3/22(火)

- ・早朝、昨日のアリーナ避難民に対する救護に関する会議の結果を県保健医療部幹部に報告
- ・みなみクリニック白井裕生先生から救護活動の申し出があり、23日、30日に福島県いわき市で医療救護活動に参加。

●3/21(月)

- ・早朝、福島県からの回答が県医療整備課経由であり、搬送が困難との一報が入る。
- ・県医療整備課に詳細情報の確認を求めたところ、福島県から、「患者の状況などから、搬送距離、時間等も考慮し、隣接の茨城県内の病院で全て受け入れられる病院が見つかったので、当該病院で対応させていただきたい」とのお願いがあったとのこと。
- ・午後、関係病院に、上記の理由を報告し、了解をうる。
- ・スーパーアリーナの避難民に対する、連休中の医療救護の状況報告等と連休明けの医療救護等について会議。議題は、連休明けの11日以降のアリーナでの医療救護体制とアリーナからの新しい避難先での円滑な医療救護について等。

(金井会長ほか担当常任理事、浦和、大宮、与野、岩槻の医師会長及び関係理事、双葉町の医師も含む職員、県さいたま市の職員等)

● 3 / 2 0 (日)

- ・多くの医療機関から転院受入れの申出があった(20日正午現在 338人)。
この情報をもとに県医療整備課と協議。県医療整備課から福島県へ情報提供。

● 3 / 1 9 (土)

- ・朝霞地区医師会から、天野先生の医療チームが早朝、宮城県の被災地へ、出発したとの連絡。
- ・県医療整備課から、福島県から、県内の入院患者95人のさいたま県内の病院等での受け入れについて協力要請があり、県医師会としての協力可能性について依頼あり。
- ・郡市医師会長に文書で連絡するとともに 県内の病院宛、協力受け入れ可能人数について照会。
- ・11:00 現在、さいたまスーパーアリーナに福島県の被災地の県民、約900人が避難。
- ・三郷医師会、松本栄直先生が、福島県いわき市でいわき市医師会の先生と一緒に救護所での医療活動を開始。
- ・北埼玉郡市医師会篠崎浩之先生から、茨城県被災地で救護活動の申し出があり、茨城県医師会と調整。志村大宮病院を中心に 22日～24日まで医療救護活動に参加。
- ・さいたまスーパーアリーナに双葉町の避難民がバスで到着。双葉町の災害対策本部を当該場所に設置。
- ・浦和市、大宮市、与野市、岩槻市医師会の会長ほか多数の医師が救護活動に当たる。
- ・県医療整備課から、福島県から要請のあった埼玉県での受入れ入院患者数は、精神疾患患者を除き35人でお願いできないかとの依頼有り。

● 3 / 1 8 (金)

- ・森野先生から、東北大学で検死作業に加わってきたので、初期の任務を終了し、本日13:00、帰途に着くとの報告。
- ・被災地への医療救護活動への参加申出医師数が31名になる。
- ・上記の医師の皆様方に、現在の派遣状況について電話で説明。
県医師会では、下記の考え方をお話し、ご理解を求めた。
 - ①派遣者の安全の確保を優先する。
 - ②このため、第1に、現地までの安全な足の確保、
第2に、受入先の受入体制の確保
を県医師会で整え次第、派遣することとしている。ただし、その大部分を自身で対処できる、いわゆる自己完結型は、原則として県医師会と被災地の医師会と

の調整の上、被災地の県医師会所在地に向かつていただくこととする。

- ・宮城県医師会と岩手県医師会は、現在、燃料不足や情報不足で受け入れ体制が充分でなく、いわゆる自己完結型の医療チームは受入可能とのこと。
- ・かねて医療救護の申し出があった朝霞地区医師会の天野教之先生の医療チームが19日～21日まで宮城県で医療救護活動を行えるよう日医、宮城県医師会等と調整。(自己完結型)
- ・三郷市医師会の松本栄直先生が19日～21日まで福島県いわき市で医療救護活動を行えるよう日医、宮城県医師会等と調整。(自己完結型)
- ・県、さいたま市が、さいたまスーパーアリーナに福島県からの避難者の救護ステーションの設置。
- ・一日二度の計画停電で、電子カルテ業務などに大きな支障を生じているとの連絡。県医療整備課に対し、東京電力に窮状を訴えて欲しいと要請。
- ・かねて医療救護の申し出があった坂戸鶴ヶ島医師会の星原政吉先生の医療チームが23日～27日まで宮城県で医療救護活動を行えるよう日医、宮城県医師会等と調整。(自己完結型)

● 3 / 17 (木)

- ・森野先生から県医師会への報告内容を、三上日医常任理事に報告
- ・17日 a m 11 : 00 現在、医療救護活動に参加申出医師の数は19名。
- ・県保健医療部長から、さいたまスーパーアリーナを避難受入施設指定する予定であること、指定に伴い、同施設への福島県からの避難者の受け入れに伴う救護活動の協力依頼。
- ・会長から同部長に県として、さいたま市保健所を管轄するさいたま市にも協力依頼し、同市からも関係医師会と相談するよう依頼。
- ・常任理事会、理事会で「東北関東大震災に係る状況と埼玉県医師会の動き」を報告

● 3 / 16 (水)

- ・宮城県医師会から連絡があり、森野医療チームが07 : 30分に現地に到着し、08 : 30～石巻体育館で検死の作業を開始。
- ・会員から計画停電に伴う自家発電に使用する重油の優先確保について要請。県医療整備課は、状況について調査中で、状況に応じ県石油行協同組合や資源エネルギー庁に要請すること。
- ・日本医師会から「検案担当医の派遣について、その1」の通知
- ・16日現在、医療救護活動に参加可能医師の数は10名。
- ・18 : 30分、森野先生から電話報告あり。
本日、石巻体育館で300遺体の検死作業を行う。検死、検案書書き。現在必要なのは検死作業が主。災害医療が必要なのは山間部。18ゲージのケレン針が不足して

いる。体育館で就寝。チームの食料は確保されている。石巻体育館の後、青物市場で検死作業を行う。

● 3 / 1 5 (火)

- ・午後、急遽、森野会長他4人が宮城に向かうとの連絡。
- ・同日、午後7時30分、三郷消防署を出発
 - 森野一英先生(61歳)外科、青木成夫先生(55歳)内科、松繁 治先生(28歳)
 - 三郷消防本部隊員：椎名義明氏、大野裕一氏、伊藤圭一氏の3人
- 緊急車両許可車2台、4tトラック(水、クシ テントなど積載)
- ・各郡市医師会長宛、被災地での医療救護活動に参加できる医師の把握を依頼。
- ・各郡市医師会長宛、この度の震災被災地に向けての募金のお願い
- ・在宅訪問診療する医師から、ガソリンの優先供給について実現方の依頼があり。県医療整備課、県産業労働政策課、県石油業協同組合に配慮方の要請。
- ・日本医師会から「東北地方太平洋沖地震における日本医師会災害医療チーム(JMAT) 派遣についてお願い」の通知。

● 3 / 1 4 (月)

- ・東京電力の計画停電の開始。
- ・当センターは、第2グループに配置。予定されるも本日の停電は無し(03/15~18、03/22、25、28の7日間で計、約21時間の計画停電が実施された)
- ・埼玉県産婦人科医会から計画停電中の自家発電機の優先融通について申し出があり、県医療整備課に対処方を強く要請。
- ・森野三郷市医師会会長から被災地での医療救護活動の申し出があり。岩手県医師会と連絡調整。空路で来れば花巻空港で出迎えるとのこと。
- ・埼玉県災害対策本部に、航空自衛隊の災害派遣機に同乗の依頼。罹災者の搬送を優先したいとのことで、緊急車両で被災地入りに転換。
- ・岩手県医師会から現地の状況から、受入体制が整わず、若干、期日を延期の申出。

● 3 / 1 3 (日)

- ・会長に、日本医師会、岩手県医師会から、検死のための医師の派遣の要請。
- ・郡市医師会に計画停電の情報通知
- ・埼玉県から保健所を通じて病院、有床診療所、透析医療機関へ計画停電の通知。

● 3 / 1 2 (土)

- ・会長から国、県、日医の災害対策本部の情報収集の指示。必要情報を会長など役員に伝達。

● 3 / 1 1 (金)

- ・発災後、直ちに県民健康センターの建物の損壊状況を管理業者とともに現場確認状況は、エレベーターが停止しただけで、同日の夜には復旧。
- ・会議室利用者、館内の職員に異常なし。医師会職員で数人、帰宅困難者が出る。

- ・ J R 全線不通のため、会館の 2 4 時間開放。